

1 郷土の美術的素材の価値

(1) 郷土の美術を教材化する意義

ア 学習を進める際の基盤となるものがすでに準備されており，創造的な表現及び鑑賞の活動を展開することができる。

郷土素材を教材として取り上げることにより，児童生徒は日々の生活とのかかわりを感じながら学習することができる。また，素材に対する情報を得やすいため，活用の仕方をいろいろ工夫することができ，創造的な表現及び鑑賞の活動を展開することができる。

身近な素材としてよく知っているので，一般的な教材と比較すると，見たり考えたりする視点を变えるだけで興味・関心を高めやすく，意欲的な表現及び鑑賞の活動を展開することが期待できる。

イ 創造的な表現及び鑑賞の活動を通して，基礎・基本を身に付けることができる。

郷土素材を直接見たり，触れたりするなどの体験を通して，そのよさや面白さを感じ取り自分の表現及び鑑賞の活動に生かし，実感したり納得したりしながら，作りだす喜びを十分に味わうことができる。

身近にある素材なので，親しみをもって活用することができる。その結果，自分の作品づくりや活動に対して自信をもって取り組むことができる。

ウ 郷土（地域）理解を深め，地域の一員としての自覚を高めることができる。

郷土の文化，伝統などに関する理解が深まるとともに，そのよさを実感し，郷土を愛する心情や郷土を大切にしようとする態度を育てることができる。例えば，蒲生和紙の作り方を見学し，実際につくるなどの活動が考えられる。

地域の人々の知恵や思いに触れたり，地域とのかかわりを深めたりすることを通して，地域の一員としての自覚を高め，自分が住んでいる地域をよりよくしていこうとする態度を育てることができる。例えば，薩摩焼きの工場を訪れ，そこで働く人の話を聞いたり作品を鑑賞したりするなどの活動が考えられる。

(2) 教材化できる郷土の美術的素材の条件

ア 児童生徒の発達段階に合致し，題材の目標を達成できる素材であること

イ 児童生徒の興味・関心を高める素材であること

ウ 児童生徒の身近にあって，できるだけ入手が容易な素材であること

エ 取扱い（加工等）が簡単で，後始末が容易にできる素材であること

(3) 郷土の美術的素材を教材化するときの留意事項

ア 題材のねらいや学習の内容を明らかにする。

イ 取り扱う郷土の美術的素材に対する，児童生徒の意識，経験等の実態を把握する。

ウ 取り扱う郷土の美術的素材について，事前に十分な教材研究を行い，児童生徒の表現活動上

のつまずきや問題点を明らかにしておく。

エ 児童生徒の発達特性を考慮し、指導計画に適切に位置付ける。

オ 児童生徒が安全に表現活動に取り組むことができるよう、活動の場、道具、材料等の安全管理及び安全指導に努める。

(4) 郷土素材の価値分析

次の表は、郷土の美術的素材に関する素材について、取り扱う素材のもつ価値についてまとめたものである。

郷土の美術的素材の例	郷土素材の価値（基礎・基本との関連）
織物（薩摩絣，大島紬など）	背景となる文化や歴史，模様的美しさ，色合いなど
和紙類（蒲生和紙，鶴田和紙など）	生成過程の不思議さ，素朴さ，加工のおもしろさなど
木材（屋久杉，サツマツゲなど）	木目の美しさ，自然の荘厳さ，背景となる文化や歴史
土や石（シラス，軽石，各種粘土など）	加工の楽しさ，形のおもしろさ，手触りのよさなど
竹（孟宗竹，こさん竹など）	形のおもしろさ，素材の軽さなど
その他 薩摩焼（龍門司，苗代川など）	背景となる文化や歴史，人との触れ合いなど
ガラス（薩摩切子）	背景となる文化や歴史，模様的美しさなど
玩具（帖佐人形，カラカラ船など）	背景となる文化や歴史，遊べるたのしさなど

2 代表的な郷土の美術素材等一覧表

次の表は、地域に存在する代表的な美術作品や伝統的な工芸品等についてまとめたものである。

美術作品等		
各美術館所蔵の絵画，彫塑等の作品		
伝統的な工芸品等		
長太郎焼	からから船	鶴田和紙
溶岩焼	知覧傘提灯	錫器
龍門司焼	帖佐人形	種子ばさみ
屋久島焼	東郷土人形	屋久杉工芸品
苗代川焼	垂水人形	大島紬
川辺焼	竹細工	薩摩絣 など
種子島焼	蒲生和紙	
その他		
吹上浜の砂の祭典		弥五郎どんの面
伊作太鼓	藍染め	泥染め
バシャギン	メジロ飼育かご	など



< 知覧笠提灯 >



< 帖佐人形 >

3 図画工作科，美術科における実践例

小学校 図画工作科 第5学年

(1) 題材名 「鹿児島再発見！僕らのおもしろ美術館」【全8時間】

(2) 題材のねらい

身近にある郷土素材の特徴を生かしながら，進んで豊かな発想や構想をして，計画的に製作することができる。

身近な環境を造形的に構成し，作りだす喜びを味わうことができる。

鹿児島への思いを自分らしい方法で表現し，表現のよさをお互いに分かち合うことができる。

(3) 郷土素材について

この期の児童は，一人一人の表現の特性や傾向が一層よく見られるようになるので，児童が，自分の表したいことなどその子らしい表現の主題を進んでもつようにすることが大切である。その中で，よさや美しさなどに主体的に気付き，思いをめぐらせ工夫しながら表現活動に取り組み，創造的に表現する能力が高まっていく。

この題材には，表したい主題を「鹿児島らしさ」におき，児童が活動する全ての過程において，デザインの能力や創造的な工作の技能を高めることができるよさがある。

活動の過程において，児童は，自分の興味・関心を思う存分生かし，もてる力を十分に働かせながら，新しい発想を目指して進んで取り組み，その表し方をいろいろ試み，工夫しながら表現活動に取り組むことになる。また，表現の意図や主題にあせて，必要な材料（流木，軽石，竹，木ぎれ，粘土，和紙等）や用具（金づち，のこ，きり等）を探し出し，自分のよさを生かして作りだす喜びを味わうことができる。

このように，この題材は，一人一人がもてる力を十分に働かせ，新たな発想や表し方を試みたり，素材の美しさなどを見付けたりするとともに，郷土のよさを知る上でも適切な題材であると言える。

(4) 学習指導要領との関連

(2) 表したいことを絵や立体に表現したり，工作に表したりする

ア 表したいことを表すために，形や色，材料の特徴特徴や構成の美しさなどの感じ，つくるものの用途などを考えるとともに，表し方を構想し計画して，創造的な技能などを生かして表現すること。

イ 表したいことに合わせて，前学年までに経験した材料や用具，自分が選んだ材料，糸のこぎりなどの特徴を生かして使い，表現に適した方法などを組み合わせながら，絵や立体に表現したり，工作に表したりすること。



(5) 展開例 (全8時間)

過 程	主 な 学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 点 評 価
<p>思いつく</p> <p>発 想</p>	<p>1 空き教室等を見ながら，どんな美術館にするか話し合う。</p> <p>2 郷土素材を触ったり，ビデオを見たりして何をつくるか話し合う。</p> <p>3 学習のめあてについて話し合う。</p> <p>郷土の素材を使って，自分がつくりたいものをつくり，おもしろ美術館を開こう。</p>	1	<p>「郷土素材を使ってつくりたいものをつくり，おもしろ美術館を開こう。」という意欲を喚起するために，参考作品や写真，VTR等を用いて，一人一人の夢が膨らむようにする。</p> <p>《関心・意欲・態度》</p> <p>自分から進んで取り組もうとしている。</p>
<p>構 想</p> <p>つ く る</p> <p>製 作</p>	<p>4 つくりたいものを考える。</p> <p>(1) テーマを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和紙を使ったランプシェード ・流木を使ったオブジェ ・貝殻や珊瑚を使ったオブジェ <p>(2) つくり方を考える。</p> <p>5 自分なりの作品をつくる。</p> <p>(1) 郷土素材の特徴やよさを考えながらつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色，大きさのおもしろさ <p>(2) 郷土素材の特徴やよさを味わいながらつくる。</p> <p>6 作品を展示し，美術館をつくる。</p>  <p>おもしろ美術館</p>	6	<p>つくりたいものへの思いや製作への見通しがもてるようにするために参考作品コーナーを設ける。</p> <p>《発想・構想》</p> <p>自分が表したい主題に合わせて，製作全体の構想をもつことができる。</p> <p>道具の使い方を掲示したり，接着の仕方を紹介したりして，安全に活動できるようにする。</p> <p>随時，学習カードで進捗状況を確認させる。</p> <p>《技能》</p> <p>素材の特徴を生かして，自分がつくりたいものを思いのままにつくることができる。</p> <p>一人一人の新たな試みや工夫に共感し，称賛することで満足感をもつことができるようにする。</p>
<p>味 わ う</p> <p>鑑 賞</p>	<p>7 できあがった作品を基に，自分がこだわったところや工夫したところなどを紹介し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島のおもしろさを知る。 <p>8 学校全体に紹介し，「僕らの美術館」をオープンする。</p>	1	<p>《鑑賞》</p> <p>お互いの作品のよさを認め合うことができる。</p> <p>広報活動や運営などを子どもたちに任せ，達成感を味わわせるようにする。</p>

(1) 題材名 「私の町の美術館 ～私のメッセージ，世界へ届け～」

(2) 題材のねらい

特攻平和会館を見学することで，平和についての考えを一層深め，平和をテーマにした作品制作の考えやイメージをまとめることができる。

テーマに沿った効果的な構図や配色を行うことで，自分の訴えたいことを表現することができる。

(3) 郷土素材について

『中学校学習指導要領解説 美術編』では，日本の美術作品や文化遺産についての取扱いが重要視されている。また，できるだけ実物に触れるチャンスをつくるために，地域の美術館，博物館などの文化施設を積極的に活用することが述べられている。

このことから，地域との連携を目指した学習を行えば，美術の基礎的能力をさらに伸ばすことができると思う。

本校区には，武家屋敷，特攻基地などの史跡や伝統的な工芸品など歴史的・文化的な素材が豊富に存在し，郷土素材を活用した学習を展開するには非常に適していると思われる。そこで，町内にある美術館や文化施設の活用を工夫し，選択教科としての「美術」における発展的学習として，鑑賞活動に取り組みせようと考えた。そして，郷土に根付いた豊かな感性をはぐくみたいと考えた。

このことにより，生徒は，表現の思いをより効果的に表現していくための構図や構成を考え，中心となるものや表す形・色の働き，動きなどを整理し，強調したり，単純化したりしながら，心の中のイメージを広げていくことができる。さらに，地域のよさを知るうえでも，この時期の生徒に適した題材であるということが言える。

(4) 学習指導要領との関連

デザインや工芸などに表現する活動

ア デザインの効果を考え，形や色彩，図柄，材料，光などの構成を簡潔にしたり，総合化したり，取り合わせを工夫するなどして，美しく豊かなデザインをすること。

イ 夢や想像などから独創的に発想し，造形的な美しさ，材料や用具の生かし方などを総合的に考え，創意工夫してつくること。

ウ 伝えたい内容をイラストレーションや図，写真などで，分かりやすく美しく表現し，発表したり交流したりすること。

エ 身近な環境について，安らぎや自然との共生などの視点から心豊かなデザインをすること。

(5) 展開例 (全4時間)

次	時間	目 標	主な学習活動	指導上の留意点及び準備等
1次	1時間	ゲルニカを鑑賞し、平和について考える。	<ol style="list-style-type: none"> 1 ピカソの「ゲルニカ」を鑑賞し、感想を発表する。 2 ピカソがゲルニカを制作した心情を考え発表する。 3 身近な平和について考え発表する。 4 特攻平和会館の見学計画を立てる。 5 鑑賞ノートに本時のまとめをする。 	<p>ゲルニカの作品について質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲルニカには何が描かれているか。 ・なぜ、白黒で描かれているのか。等 <p>なぜ、ピカソはゲルニカを制作したのか。</p> <p>ゲルニカをプリントしたOHPシートと実寸大の広幅用紙を準備し、実際のゲルニカのサイズに投影して掲示する。</p> <p>資料を基に、ゲルニカの制作の背景について補足説明を加える。</p> <p>身の回りに目を向けさせ、最も身近な戦争や平和について考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知覧町に関することについて ・現在、世界で起こっていることについて <p>特攻平和会館の資料とワークシートを配り、見学について説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この時間で学習したことを振り返りどんな目的をもって見学するのか考えさせる。
2次	3時間	平和会館の見学を基に、平和を訴える抽象画を描こう。	<ol style="list-style-type: none"> 1 ワークシートを基に、抽象画制作のアイデアスケッチをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が最も訴えたいことを制作していく。 ・構図や配色など様々なアイデアスケッチを行い、より効果的な表現方法を考える。 2 アイデアスケッチを基に、画用紙に下描きをする。 3 彩色、仕上げをする。 4 完成した作品を相互に鑑賞し、感想を発表し合う。 5 自己評価カードに、学習のまとめを記入する。 	<p>平和をテーマにした抽象画をA4サイズで制作することを説明する。</p> <p>平和会館見学を通して感じ取ったことを基に、平和を訴える自分のメッセージを作品として制作することを説明する。</p> <p>アイデアスケッチに際しては、平和会館で最も印象に残ったことを、どのような表現方法で訴えたいのか、十分に考えさせる。</p> <p>アイデアがまとまらない生徒に対しては、ゲルニカにこめられたピカソの思いを想起させ、作品の主題を自覚化できるようにする。</p> <p>それぞれのテーマに沿って、配色や画材を選択できるようにする。</p> <p>自他の作品を認め合うことで、それぞれの平和に対するメッセージを共感できるようにする。</p>



生徒の作品